

※2023年5月2日～2025年5月1日の期間

教育研究業績書

| | | | |
|-------------------------|--|----|-----------------------|
| 氏名 | ひろしずみ 廣住 豊一 | 職名 | 環境情報学部長 教授（博士（学術）） |
| 専門分野 | 農業土木学、土壌物理学、農地工学、花き園芸学 | | |
| 所属学会 | 農業農村工学会、土壌物理学会、園芸学会、日本土壌肥料学会、畑地農業振興会、日本温泉科学会 | | |
| 担当科目 | 環境情報学概論Ⅰ（分担）、環境情報学概論Ⅱ（分担）、基礎演習 a、基礎演習 b、専門演習 a、専門演習 b、専門演習 c、専門演習 d、食糧生産学、土壌環境学（土壌学）、地球環境学、環境科学、生活環境学、農業環境学、環境実験・調査 a、環境実験・調査 b | | |
| I 教育活動 | | | |
| | 教育実践上の主な業績 | 概 | 要 |
| 1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） | <p>講義形式の授業では、学習内容をより定着させ、受講生を飽きさせず、能動的な作業をさせるため、授業時間内に確認テストや小レポートを課した。文章や計算を苦手とする学生のため、文章で説明させる問題や式を立てて計算する問題を中心に出題した。自らの考えをまとめさせる問題も出題した。提出された課題はすべて添削し、次の授業で返却した。</p> <p>専門演習では、実験や調査などの自らの頭と体を動かす活動を重視し、正規の授業時間以外にも活動できる時間を確保した。演習での活動は学年を問わず全員参加を基本とし、上級生が下級生を指導する体制を敷くことで、指導力や協調性などが養われるようにした。</p> | | |
| 2. 作成した教科書、教材、参考書 | <p>担当する専門講義科目において、各回 A3 両面刷りの自作資料を作成および配布した。この資料は書き込み式で板書を無理なく書き取れるように工夫した。すべての資料を集めて製本することで 60 ページの冊子として読み返すことができるようにした。この冊子を確認することで、各授業科目に関する基本的な内容を復習できるような教材を目指し、改善を重ねている。講義資料は Moodle を用いて、PDF 形式でダウンロードできるようにした。</p> | | |
| 3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | 特になし。 | | |
| 4. その他教育活動上特記すべき事項 | <p>次の模擬講義や進路ガイダンス等高校生に対する教育活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 暁高等学校進路ガイダンス「環境・農学関連（環境・農学・生物）」（2023年10月4日） ● オープンキャンパス模擬講義「フルーツや野菜をはかる～果実中の糖度・酸度分析」（2023年10月5日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「人間と環境問題の歴史」、「森林破壊と砂漠化」（2024年2月14日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「キミにもできる！土壌調査に挑戦！！」（2024年2月19日） ● 愛知県立武豊高校進路ガイダンス「模擬・体験授業（農学・生物学分野）」（2024年3月5日） ● 佐屋高等学校大学見学会（2024年3月8日） ● オープンキャンパス学部説明（2024年5月18日） ● オープンキャンパス模擬授業 「野菜やフルーツのジュースを測ってみよう」（2024年5月18日） | | |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● オープンキャンパス学部説明 (2024年7月13日) ● 暁高等学校系統・分野別説明会(文理選択進路ガイダンス)環境・農学関連(環境・農学・生物) (2024年10月2日) ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「キミにもできる！土壌調査に挑戦！！」(2025年2月13日) ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「人間と環境問題の歴史」、「森林破壊と砂漠化」(2025年2月17日) |
|--|---|

II 研究活動

論文

| 著書・論文等の名称 | 単著 共著 | 発行または 発表の年月 | 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称 | 編者・著者名 (共著のみ記入) | 該当頁数 |
|---|----------|----------------|-------------------------|----------------------|----------|
| マツバギクによる塩害土壌からのナトリウム除去効果 | 共著 | 2024年3月 | 「四日市大学論集第36巻第2号」四日市大学学会 | 岡田実姫、◎廣住豊一 | 161-169頁 |
| 四日市大学構内に設置した小型模擬水田を用いた緩効性肥料顆粒被膜プラスチックの流出量・残留量調査 | 共著 | 2024年9月 | 「四日市大学論集第37巻第1号」四日市大学学会 | 小川海都、◎廣住豊一、千葉賢、大八木麻希 | 89-95頁 |

学会発表

| 発表(報告)名等 | 単独 共同 | 発表の年月 | 学会名等 |
|--|----------|---------|---|
| 緩効性肥料被覆樹脂の試験田からの流出量および土壌への残留量 | 共同 | 2023年8月 | 2023年度農業農村工学会大会(愛媛県松山市) 共同研究者:吉田祥希、大井佑介、廣住豊一、大八木麻希 |
| 模擬塩害土壌を用いたマツバギクの除塩能試験 | 共同 | 2024年3月 | 令和6年度園芸学会春季大会(神奈川県厚木市) 共同研究者:廣住豊一、岡田実姫 |
| 施用タイミングの違いによる水稲用一発型肥料被覆樹脂の小型水田からの流出量変化 | 共同 | 2024年9月 | 2024年度農業農村工学会大会(青森県弘前市) 共同研究者:荒木寛、廣住豊一、大八木麻希 |
| 培地冷却によるトルコギキョウ‘マリーナマリン’の覆輪面積変化 | 共同 | 2025年3月 | 令和7年度園芸学会春季大会(神奈川県藤沢市) 共同研究者:廣住豊一、石橋花梨 |

外部資金

| 資金名 | 助成期間 | 課題名等 |
|-----------------|---------------------|--|
| 四日市大学特定プロジェクト研究 | 2023年5月～ 2023年3月 | 地域農業遺産「マンボ」とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル |
| 四日市大学特定プロジェクト研究 | 2025年4月～ 2027年3月 | ブルーマリンデジタルイノベーション:先端AI・ICT技術で挑む海洋環境保全・水産資源再生 |

| Ⅲ 社会における主な活動 | |
|---------------|---|
| 学会活動 | |
| 2023年4月～現在に至る | 評議員(園芸学会東海支部) |
| 2023年4月～現在に至る | 会計幹事(土壤肥料学会中部支部) |
| 2024年9月 | 令和6年度園芸学会東海支部大会・研究発表会「野菜III・利用」座長(園芸学会東海支部) |
| 2025年4月～現在に至る | 一般社団法人農業農村工学会土壤物理研究部会副部長(一般社団法人農業農村工学会) |
| 役員・委員等 | |
| 2025年3月～現在に至る | 四日市市環境保全審議会委員(四日市市) |
| 講演等 | |
| 2024年1月 | 令和5年度近畿中国四国農業試験研究推進会議土壤肥料推進部会問題別研究会「小型水田での水稲一発型肥料被覆プラスチック流出試験」講演(オンライン) |